

ビッグデータTo-Beモデル検討むけて 活用領域・利用目的検討 (事務局案)

2012年11月5日

ジャパン・クラウド・コンソーシアム

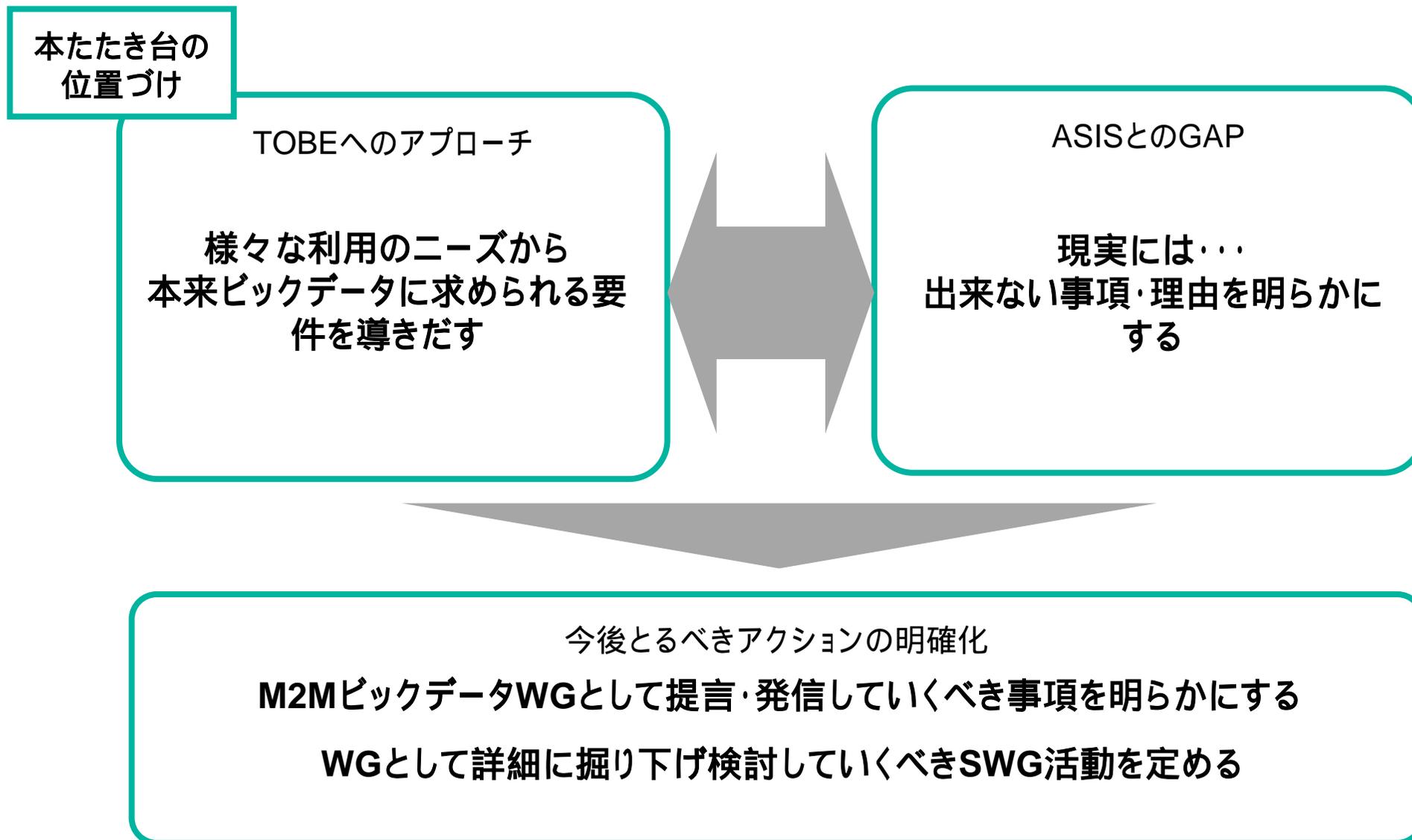
M2M・ビッグデータWG

本資料の位置づけ

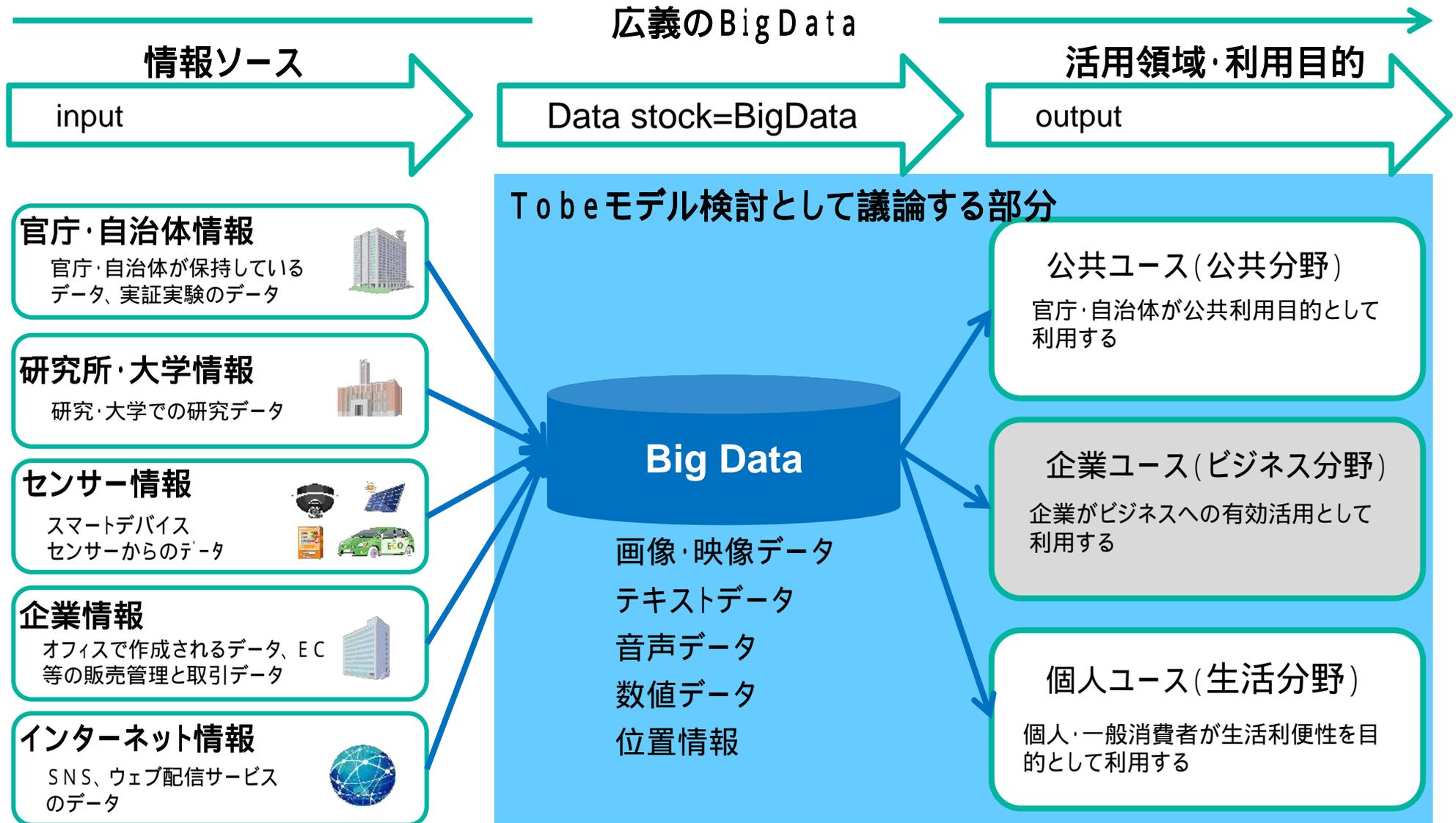
- 本資料はWGグループ活動における検討の導入として、事務局案として提示する資料である。
- 本資料はあくまで「たたき台案」として提示するものであり、WGの検討を有意義かつ円滑にするための「一案」として位置付ける。
- 本資料を基にして、WGで検討した結果をWGとしての「アウトプット」として最終的に「ビッグデータのTOBEモデル案」と定義する。

- M2M・ビッグデータWG
 - 事務局

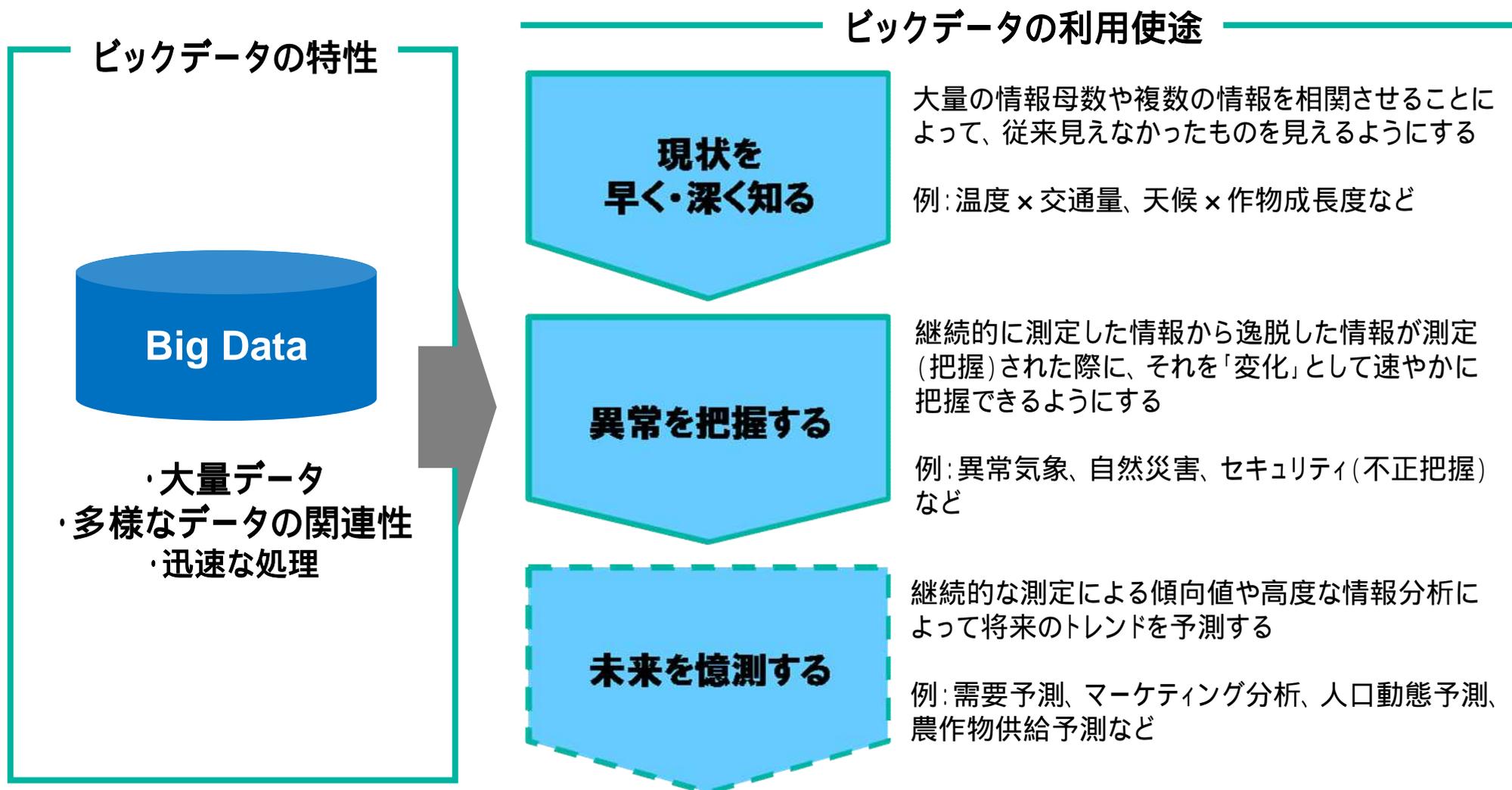
本WGで検討するアプローチの全体像(案)



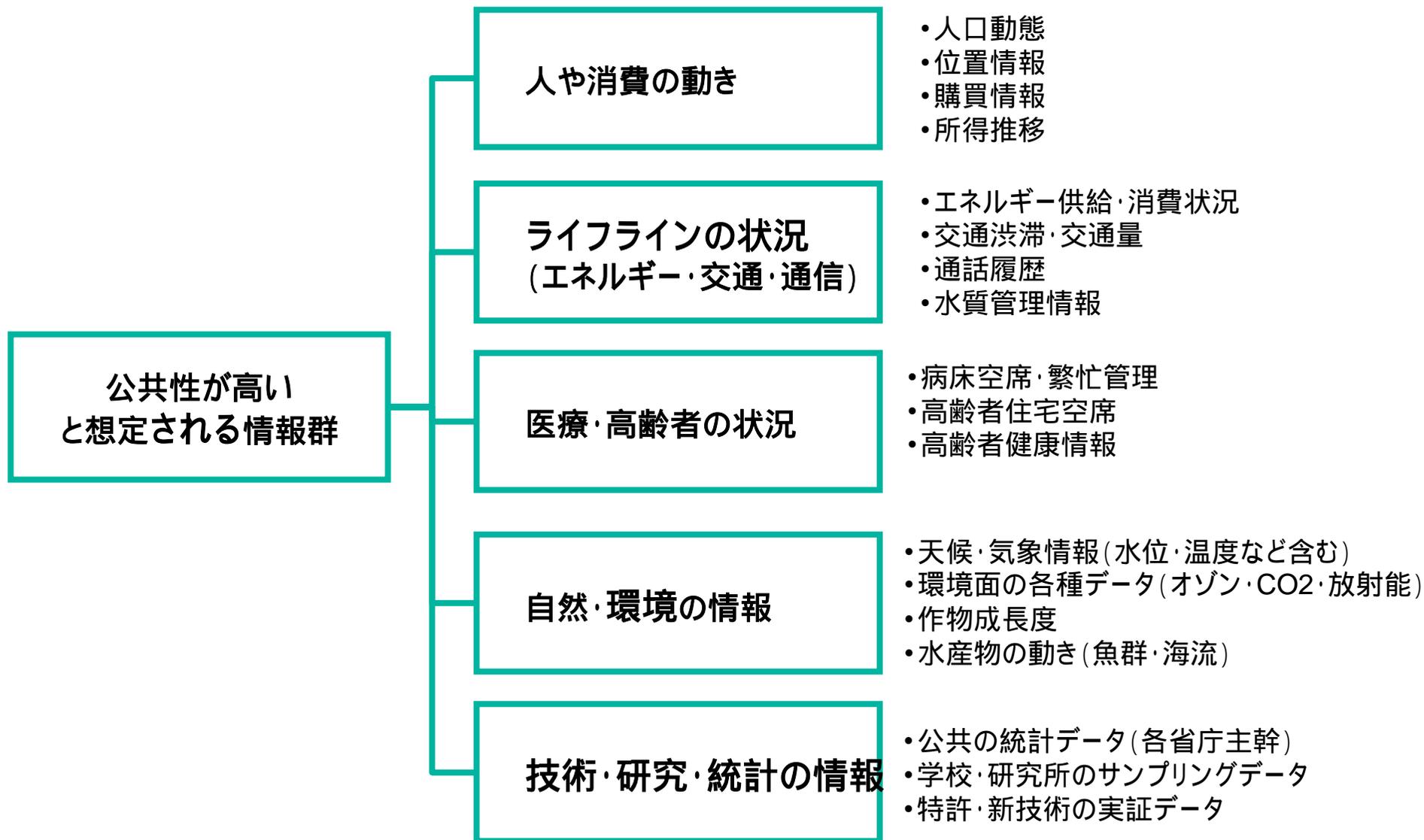
ビッグデータTOBEモデル検討の全体像(案)



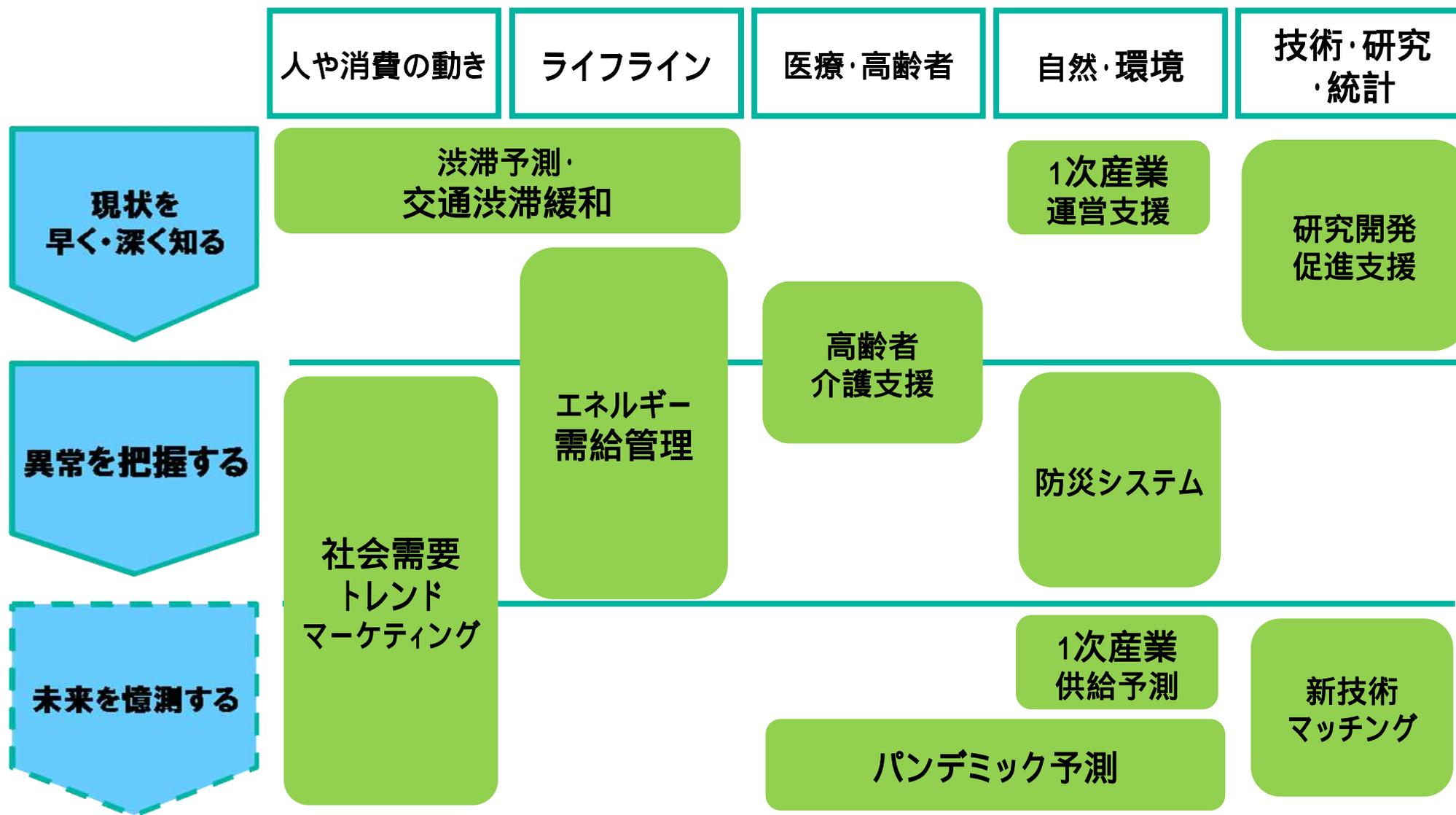
利用目的仮説：ビッグデータによって出来ること



公共側面で検討するべき情報群(案)



活用領域仮説：ビッグデータの活用局面(例)



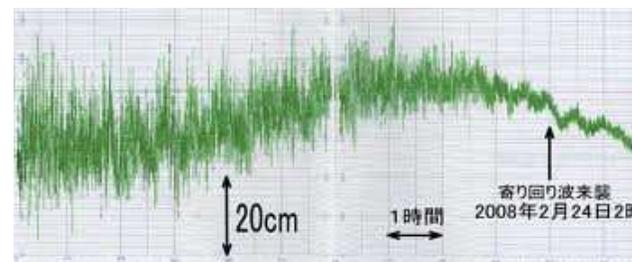
議論するにあたって・・・ポイントとなる要素

情報の過密度から見えるもの
粗くとらえたいたものを細かくみると・・・



情報を細かくすることで精度があがるものは？

情報の継続的な長さから見えるもの
期間的に短かったものを長期間みると・・・



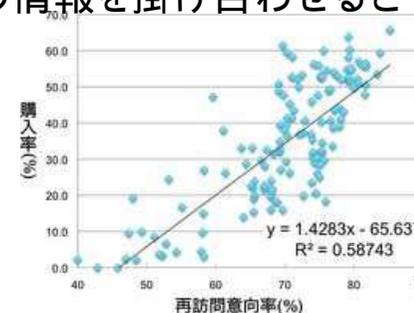
測定サイクルを変えると見えるものは？

情報の母数の多さから見えるもの
少数ではなく多数でみると・・・



足りなかった情報が埋まっていくことで
見えるものは？

複数の相関から見えるもの
いくつかの情報を掛け合わせると・・・



見えない因果関係からの発見は？